

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
4 月	1. 式の計算 ○文字式の分類・次数の理解 ○同類項の意味、計算の理解 ○多項式の加法・減法の計算 ○分数係数を含む式の計算 ○単項式の乗法・除法の計算 ○乗法と除法の混じった計算 ○式の計算を活用し、式の値を効率的に求める。	【主体的に学習に取り組む態度】 ○文字を2つ以上含む式の計算の方法に関心を持ち、計算しようとする。 ○式の値を求めるとき、簡単に求める方法を考えようとする。 ○整数のいろいろな性質を説明するのに、文字式を利用しようとする。 ○具体的な問題の解決に式の計算を利用しようとする。 ○目的に応じ等式を変形しようとする。 【思考・判断・表現】 ○多項式の加減や単項式の乗除の計算方法について小学校や1年の学習経験をもとに考えることができる。 ○式の値を簡単に求めるのに、式の計算を利用することを通して、式の計算のよさを見出すことができる。 ○整数や図形の性質について、文字式を用いて考察することができる。 ○目的に応じて等式を変形し、数量の関係を考察することができる。	知識・技能	◎整式の加減や単項式の乗除の計算を、既習の計算や面積図などと関連づけて理解している。 ◎整式の加減、多項式と数の乗除、単項式の乗除の計算を、正確かつ能率的に行うことができる。 ◎文字式を用いて数量の関係を一般的に表現したり説明したりすることの意義やよさを理解している。 ◎帰納や類推によって発見的にとらえた数量の関係を、文字を用いて簡潔にかつ一般的に説明することができる。 ◎式を変形することの意義や、そのよさについて理解している。 ◎目的に応じて自由に式を変形したり、変形する目的や手順を、具体例に関連づけて説明することができる。	○単項式、多項式、式の次数、同類項の意味を理解している。 ○同類項のまとめ方や、単項式の乗除の計算方法を理解している。 ○整式の加減、多項式と数の乗除、単項式の乗除の計算ができる。 ○文字を用いると数量やその関係を簡潔かつ一般的に表現できることや、一般的に説明することができるなど、文字式を用いる意義を理解している。 ○事象を文字式に表したり、文字式が表す具体的な場面をよみとったり、一般的な説明をしたりすることができる。 ○等式を目的に合うように変形することの意味とその方法を理解している。 ○具体的場面で、等式を目的に合うように変形することができる。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
5 月	2. 式の利用 ○式による説明 ○等式の変形	【知識・技能】 ○単項式、多項式、項、次数、同類項等式を「～について解く」の意味を理解している。 ○同類項のまとめ方や多項式の加減、数と多項式の乗除、単項式の乗除の計算方法を理解している。 ○多項式の次数を求めることができる。 ○多項式の加減、多項式と数の乗除、単項式同士の乗除の計算ができる。 ○整数や図形の性質を文字式で表したり、一般的に成り立つわけを説明したりすることができる。 ○2つ以上の文字を含む式について式の値を求めることができる。 ○等式を変形する手順を理解している。 ○目的に応じて等式を変形することができる。	思考・判断・表現	◎数の計算や1年での文字式の計算と関連づけて、面積図などを用いたりして、整式の加減や単項式の乗除の方法を見いだすことができる。 ◎数量の関係を帰納や類推によって発見し、それが一般的に成り立つことを、文字式を用いて考察することができる。 ◎目的に合うように式を変形することによって、数量の関係が見やすくなり、的確にとらえやすくなるという、変形することのよさに気づく。	○整式の加減や単項式の乗除の計算方法について、小学校や1年での学習経験をもとに考えることができる。 ○数量の関係や性質について、それを文字式を用いて、一般的に考察することができる。 ○目的に応じて式を変形し、数量の関係を考察することができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	◎数の計算や1年での文字式の計算と関連づけて、整式の加減や単項式の乗除の計算をしようとする。 ◎数量の関係を、帰納や類推によって発見的にとらえ、それが成り立つわけを、文字を用いて説明しようとする。 ◎変形する目的を具体的な事象と関連づけるなど、自ら課題を設定し、目的をもって式を変形しようとする。	○文字を2つ以上ふくむ式の計算の方法に関心をもち、それらを計算しようとする。 ○事象を文字を用いて表したり、その意味をよみとったりするなど、文字式を利用しようとする。 ○問題解決にあたって、文字式の計算を利用したり、目的に合うように式を変形したりしようとする。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
6 月	1. 連立方程式とその解き方 ○2元1次方程式の意味 ○問題を2元1次方程式で表すこと ○連立方程式の意味 ○連立方程式の解とそれを解くことの意味 ○加減法の意味 ○消去の意味 ○加減法による連立方程式の解き方 ○代入法による連立方程式の解き方 ○小数係数、分数係数をもつ連立方程式を解くこと ○ $A=B$ の形をした連立方程式の解き方	【主体的に学習に取り組む態度】 ○2種類の文字を用いて表すことのできる数量の間の関係に関心をもち、その関係を方程式で表したり、解を求めたりしようとする。 ○連立方程式を1次方程式に帰着して解くことができることに関心をもち連立方程式を解く方法を考えようとする。 ○問題解決に、連立方程式を活用しようとする。 【思考・判断・表現】 ○方程式を連立させることの意味や2元1次方程式の解の意味を考察することができる。 ○連立方程式を1次方程式の解法に帰着させて解く方法を、具体例を通して気づき、一般的に考察することができる。 ○問題解決のために連立方程式をつくり、その答えを求めることができる。 【知識・技能】 ○数量の間の関係を、2元1次方程式で表すことができる。 ○2元1次方程式、連立方程式とその解の意味を理解している。 ○2元1次方程式を満たす2つの数の組を求めることができる。 ○連立方程式の解を、2つの2元1次方程式の共通な解として求めることができる。 ○加減法、代入法を用いて連立方程式を解くことができる。 ○具体的問題について、数量の間の関係を連立方程式に表すことができる。 ○連立方程式を使って文章題を解くときの手順を理解している。	知識・技能	○連立方程式の意味やその解を、1元1次方程式と関連づけて理解している。 ○2つの方程式を連立することの意味を説明することができる。 ○いろいろな連立方程式を正確かつ能率的に解くことができ、その手順を的確に説明することができる。 ○分数係数をもつ連立方程式などを、係数を簡単にして解くなど、いろいろな連立方程式を工夫して解く方法を理解している。 ○いろいろな問題場面に応じて、1元1次方程式や連立方程式を的確に用いることができ、立式や解法の過程を説明することができる	○2元1次方程式、連立方程式とそれらの解の意味を理解している。 ○連立方程式をつくることができる。 ○1つの文字を消去して既知の1次方程式に帰着すれば連立方程式を解けることを理解している。 ○連立方程式を加減法や代入法を用いて解くことができ、その手順を説明することができる。 ○連立方程式を使って、具体的な問題を解く手順を理解している。 ○連立方程式を利用することによって、2つの文字を用いて考えることのよさを理解している。 ○文章題における数量の間の関係を連立方程式に表すときの手順や、その連立方程式を解いて求めた答が、問題に合っているかどうかを説明することができる。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
7 月	2. 連立方程式の利用 ○問題解決のために連立方程式を使うこと ○いろいろな問題例とその立式における考え方		思考・判断・表現	○未知数として用いる文字の数と、それを求めるための方程式の数の関係に、作業などを通して気づき、問題の解決に生かすことができる。 ○文字を消去する方法を見いだすことができる。 ○文字を2つ用いることができる事象で、連立方程式で表した場合と1元方程式で表した場合とで、式や解法、答などについて、相互の関係を考察することができる。	○2つの文字を用いると数量の関係が簡単に表せるものがあることに気づき、その関係を式に表したり、それを方程式とみて、解の意味を考察したりすることができる。 ○方程式の係数を簡単にするなど、いろいろな連立方程式の解き方を、1年の方程式の学習に関連づけて考察することができる。 ○具体的な場面で、数量の間の関係をとらえて連立方程式をつくり、その答を求めることができるとともに、解や解決方法が適切であったかを、振り返って考えることができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○2元1次方程式の解が無数にあることに関心をもち、解を1つに決めるための条件について考えようとする。 ○連立方程式の2つの文字の一方の文字を消去する方法を見だし、連立方程式の解き方を考えようとする。 ○文字を2つ用いて方程式をつくることによって、問題解決の場面が広がったり、解決が容易になったりすることのよさに気づき、積極的に連立方程式を活用しようとする。	○2つの文字を用いると数量の関係が簡単に表せるものがあることに関心をもちその関係を式に表したりこれを方程式とみて解を求めようとする。 ○連立方程式を1次方程式に帰着させて解くという代数的操作に関心をもち、連立方程式を解こうとする。 ○文字を2つ用いて方程式をつくることによって、問題解決の場面が広がったり、解決が容易になったりすることに関心をもち、連立方程式を用いて問題を解こうとする。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
9 月	1. 1次関数 ○事象の中から1次関数を見出し、式に表すこと ○1次関数の意味 ○1次関数と比例の比較 2. 1次関数の性質と調べ方 ○1次関数の変化の割合の意味 ○yの増加量とxの増加量の関係 ○1次関数のグラフと比例のグラフとの関係 ○1次関数のグラフを傾きと切片からかくこと ○1次関数の増減とグラフ ○グラフから1次関数を求めること ○1次関数の変域の対応 ○グラフから式を求める ○一つの座標と傾きから式を求める ○二つの座標から式を求める。	【主体的に学習に取り組む態度】 ○1次関数に関心をもち、その特徴について調べようとする。 ○1次関数の値の変化に関心をもち、変化の割合を調べようとする。 ○1次関数のグラフを描いてみようとする。 ○連立方程式の解をグラフを利用して求めようとする。 【思考・判断・表現】 ○1次関数の変化の割合は一定であることに気づく。 ○ $y = ax + b$ のaやbの意味とグラフの特徴を関連付けることができる。 ○1次関数の求め方について、計算による求め方とグラフによる求め方を関連付けて考察することができる。 ○2つのグラフの交点の座標を連立方程式の解と見ることができる。 【知識・技能】 ○関数の意味を理解している。 ○切片や傾きの意味を理解している。	知識・技能	◎1次関数について、他の関数と関連づけて、1つの関数として捉えたりして、その意味を理解している。1次関数の特徴を、表、式、グラフと関連づけて、関数同士をより深く理解している。 ◎具体的な事象について、それを式で表すときの手順や、 $y = ax + b$ のaやbの意味を、事象に関連づけて説明することができ、1次関数の関係を表、式、グラフなどを用いて適切に表現することができる。 ◎具体的な事象を、1次関数を用いて的確に処理し、その特徴から事象についていえることを説明することができる。 ◎2元1次方程式を1次関数として適切に表現することができる。	○関数、1次関数の意味、変化の割合や切片、傾きの意味、1次関数の変化のようす、グラフの特徴を理解している。 ○1次関数について、その関係を式で表したり、変化の割合を求めたりすることができる。 ○1次関数の関係を、表、式、グラフなどで表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。 ○1次関数と2元1次方程式の関係を理解している。 ○2元1次方程式のグラフをかくことができる。 ○2元1次方程式のグラフの交点の座標を利用して、連立方程式の解を求めることができる。 ○連立方程式の解の意味を、2元1次方程式のグラフを通して理解している。 ○1次関数の表、式、グラフを用いて、身のまわりの事象を表現したり、処理したりすることができる。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
10月	3. 2元1次方程式と1次関数 ○2元1次方程式と1次関数の関係 ○グラフの交点と連立方程式の解の関係 4. 1次関数の利用 ○事象の問題を1次関数を利用して求める ○図形における利用 ○グラフの利用	○1次関数の変化の割合を求めることができる。 ○1次関数のグラフから、1次関数を求めることができる。 ○グラフを利用して連立方程式を解くことができる。 ○1次関数のグラフの特徴を理解している。 ○連立方程式の解が、グラフの交点の座標であることを理解している。 ○連立方程式を解いて、グラフの交点の座標を求めることができる。 ○ $y = k$ のグラフを理解している	思考・判断・表現	◎事象のなかから、1次関数の関係にある2つの量を見いだすことができる。 ◎1次関数の特徴について、比例や反比例と関連づけてとらえ、考察することができ、具体的な事象を、1次関数を用いてとらえ、表、式、グラフなどと具体的な事象とを関連づけて、その特徴を考察することができる。 ◎2元1次方程式と1次関数を関連づけてとらえることによって、連立方程式の解の意味や存在など、事象を広く考察することができる。	○身のまわりの事象のなかから2つの量の関係を、変化や対応に着目して考察し、1次関数としてとらえられるものがあることに気づく。 ○1次関数について、式や表、グラフからその特徴を考察することができる。 ○具体的な事象を、1次関数を用いて考察することができる。 ○2元1次方程式のグラフを、その2元1次方程式の解の集合であるとしてとらえるなど、方程式の解の意味を考察することができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	◎事象のなかから1次関数を見だし、表現し、考察しようとする。 ◎1次関数の特徴を、比例や反比例と関連づけて調べようとする。 ◎1次関数を用いて表すことのできる事象の特徴を、関数的な見方や考え方を利用して調べ、事象についてどのようなことがいえるかを考察しようとする。 ◎2元1次方程式と1次関数を関連づけてとらえることを通して、関数的な見方や考え方のよさを知り、それを問題解決に活用しようとする。	○身のまわりの事象のなかから2つの量の関係に関心をもち、観察、実験などを通して、1次関数について調べようとする。 ○1次関数の関係に関心をもち、表、式、グラフなどを用いて、その特徴を調べようとする。 ○2元1次方程式を2つの変数の関数関係を表しているとしてとらえられることに気づき、これを1次関数と関連づけて考察しようとする。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
10月	1. 説明のしくみ ○多角形の内角の和の求め方の説明 ○多角形の外角の和の求め方の説明 2. 平行線と角 ○対頂角 ○同位角と錯角 ○平行線と同位角 ○平行線と錯角 ○三角形の内角と外角 ○多角形の内角の和 ○多角形の外角の和 ○同位角、錯角の意味を理解し、平行線と錯角の関係を論理的に説明 3. 合同な図形 ○合同な図形の意味 ○合同な図形の対応する線分と対応する角 ○合同な図形の性質 ○三角形が1通りに決まる条件 ○三角形の合同条件 ○三角形の合同を合同条件から判断すること ○作図の方法が正しいわけを、合同条件を利用して示すこと ○図形の基本性質と定理 ○仮定と結論の意味	【主体的に学習に取り組む態度】 ○多角形の内角の和を求める方法を考えようとする。 ○対頂角や平行線と角の関係について調べようとする。 ○合同な2つの図形に関心をもち、考察しようとする。 ○図形の性質を、三角形の合同条件を使って考察しようとする。 【思考・判断・表現】 ○多角形の内角の和の性質を、三角形の内角の和が 180° であることをもとにして見出すことができる。 ○平行線の関係を、角の関係に置き換えて捉えることができる。 ○合同な2つの図形の性質を見出そうとする。 ○三角形の合同条件を用い、図形の性質を考察し、証明することができる。 【知識・技能】 ○多角形の表し方を理解している。 ○外角、内角の意味を理解している。 ○多角形を、頂点の記号を用いて表すことができる。 ○平行線の性質や多角形の内角や外角の性質を利用して、図形のいろいろな角の大きさを求めることができる。 ○対頂角や同位角、錯角の意味、平行線と同位角、錯角の関係を理解している。 ○証明の意味を理解している。 ○合同の意味を理解している。 ○合同な2つの図形を、記号を使ってあらわすことができ、対応する角や辺が等しいことを式に表すことができる。 ○三角形の合同条件を理解し、その使い方を理解している。 ○仮定、結論の意味を理解している。	知識・技能	○平行線や角の性質、多角形の内角、外角の和について、それらを体系立てて理解している。 ○多角形の内角や外角の大きさを工夫して求めたり、求め方の根拠を分かりやすく説明したりすることができる。 ○平行線や角の性質などを一般的に説明するには、演繹的な方法による必要があることを理解している。 ○既知の性質を根拠として新しい性質を導くという推論の過程や方法について理解している。 ○平行線や角の性質、三角形の合同条件を適切に用い、図形の性質が成り立つわけを、的確に分かりやすく表現することができる。 ○図形の性質が正しいことについて、ことばや式を用いて的確に表現することができる。	○対頂角や平行線と角の性質を利用して、角の大きさを求めることができ、多角形の内角の和、外角の和を求めることができる。 ○推論の過程を表現することができる。 ○平行線の性質や多角形の角の性質を理解している。 ○証明の意義を理解している。 ○三角形の合同条件や、基本的な図形の性質を理解している。 ○合同な三角形の組を見いだすには、辺と角の内の3つの要素で判断できるということを理解している。 ○2つの図形が合同であることや作図方法が正しいわけ、三角形の合同条件を、ことばや式で表したり、それをよみとったりすることができる。 ○三角形の合同条件を用いて、図形の性質を説明できることを理解している。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
			思考・判断・表現	○多角形の内角や外角の大きさについて、いろいろな方法で確かめたり、発展的に考えたりすることができる。 ○平行線や角の性質、三角形の合同条件や、それらを用いて見いだした図形の性質について、その一般性を考察することができる。 ○図形の性質が正しいことについて、ことばや式を用いて的確に考察することができる。	○多角形の内角の和、外角の和の性質などを、既知のことに帰着して論理的に考察することができる。 ○根拠となることがらを明確にして、結論を図や用語を用いて導く過程を考察することができる。 ○2つの三角形が合同になるための条件を調べ、合同条件を考察することができる。 ○作図の方法が正しいわけや簡単な図形の性質を、三角形の合同条件を用いて考察し、証明することができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○多角形の内角や外角の大きさについて、いろいろな方法で確かめようとしたり、発展的に考えようとしたりする。 ○平行線や角の性質、三角形の合同条件などを用いて、角の大きさを求めたり、図形の性質について考察したりしようとする。 ○演繹的な推論の必要性に関心をもち、図形の性質を証明しようとする。	○小学校ですでに学習したり、あたりまえのことと思われたりしていることがらについて、筋道立てて考え、説明することのよさに気づく。 ○多角形の内角の和や外角の和に関心をもち、それを既知の内容である三角形の内角の性質に帰着して調べようとする。 ○三角形のどの辺や角に着目すると2つの三角形が合同になるのかについて関心をもち、それについて調べようとする。 ○作図の方法が正しいわけや簡単な図形の性質を、三角形の合同条件を用いて考察しようとする。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート
11月						

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
12月	1. 三角形 ○二等辺三角形の性質 ○定義、定理の意味 ○二等辺三角形の定義 ○正三角形の定義 ○正三角形の性質 ○2つの角が等しい三角形 ○定理の逆 ○直角三角形の合同条件	【主体的に学習に取り組む態度】 ○二等辺三角形の性質や二等辺三角形になるための条件に関心をもち、それについて調べようとする。 ○既習事項をもとに、直角三角形の合同条件を見出そうとする。 ○平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件に関心をもち、それについて調べようとする。 ○図形を、面積を変えずに変形できることに興味をもち、調べようとする。 【思考・判断・表現】 ○二等辺三角形の性質、二等辺三角形になるための条件、平行四辺形の性質、平行四辺形になるための条件を考察し、証明することができる。 ○直角三角形の合同条件を用いて図形の性質を考察し、証明することができる。 ○長方形とひし形の対角線の性質を考察することができる。 ○面積が等しいことを根拠にして、図形の性質を考察することができる。 【知識・技能】 ○定義や定理の意味を理解している。 ○二等辺三角形の定義、性質、二等辺三角形になるための条件、正三角形の定義を理解している。 ○命題の逆の意味を理解している。 ○直角三角形の合同条件を理解している。 ○平行四辺形の定義、性質、平行四辺形になるための条件を理解している。 ○二等辺三角形の性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 ○平行四辺形や平行四辺形の性質を、記号を使って表すことができる。 ○平行線を利用して、等積変形を行うことができる。 ○長方形、ひし形、正方形の定義を理解している。	知識・技能	◎既知の性質から今まで知らなかった新しい性質が導き出せるという、証明の意義について理解している。 ◎二等辺三角形や平行四辺形の性質や条件を、既習の図形の性質や三角形の合同条件などを適切に用いて、的確にわかりやすく、そのわけを説明することができる。 ◎直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件と対比して理解している。	○平行四辺形に関するいろいろな性質や条件を理解している。 ○定義と定理、定理の逆の意味を理解している。 ○二等辺三角形や平行四辺形の性質から、新たな図形の性質が導けることを理解している。 ○二等辺三角形・平行四辺形の性質や二等辺三角形・平行四辺形になるための条件を説明することができる。 ○ある定理の逆をいうことができる。 ○直角三角形の合同条件を用いて、図形の性質を説明したり、証明をよみとったり、表したりすることができる。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
	2. 平行四辺形 ○平行四辺形の定義 ○平行四辺形の性質 ○平行四辺形の性質を利用した証明 ○平行四辺形になるための条件 ○いろいろな平行四辺形 ○長方形、ひし形、正方形の性質 ○平行線間の距離 ○底辺に平行な直線上に頂点をもつ三角形の面積 ○面積を変えないで多角形を変形すること。	【知識・技能】 ○定義や定理の意味を理解している。 ○二等辺三角形の定義、性質、二等辺三角形になるための条件、正三角形の定義を理解している。 ○命題の逆の意味を理解している。 ○直角三角形の合同条件を理解している。 ○平行四辺形の定義、性質、平行四辺形になるための条件を理解している。 ○二等辺三角形の性質を利用して、角の大きさを求めることができる。 ○平行四辺形や平行四辺形の性質を、記号を使って表すことができる。 ○平行線を利用して、等積変形を行うことができる。 ○長方形、ひし形、正方形の定義を理解している。	思考・判断・表現	◎既習の図形の性質を根拠にしなが、三角形や四角形の性質を見だし、それを証明することができる。 ◎平行四辺形、長方形、ひし形、正方形の関係を考察することができる。	○二等辺三角形の性質や平行四辺形の性質、平行四辺形になるための条件を考察し証明することができる。 ○逆が成り立たない場合について、その例（反例）をあげることができる。 ○二等辺三角形の性質や三角形の合同条件をもとに、直角三角形の合同条件を考察することができる。 ○二等辺三角形や平行四辺形の性質を用いて、図形の性質を考察することができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
1月			主体的に学習に取り組む態度	◎三角形や平行四辺形の性質について進んで考察し、見出した性質を自ら確かめようとする。 ◎長方形、ひし形、正方形と平行四辺形との相互関係を捉えようとしている。 ◎平面図形の性質や図形の合同について学んだことを学習に生かそうとしている。	○二等辺三角形や平行四辺形のいろいろな性質に関心をもち、それらを見いだそうとする。 ○定理とその逆の関係に関心をもち、いろいろな場合についてその逆を考えようとする。 ○直角三角形の合同条件に関心をもち、二等辺三角形の性質や三角形の合同条件から調べようとする。 ○二等辺三角形や平行四辺形の性質を用いて、図形の性質を考察しようとする。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
2月	1. 確率 ○場合の数から計算によって確率と求めること ○確率 p の範囲が $0 \leq p \leq 1$ であること ○余事象の確率を求める ○樹形図を利用して場合の数を求めること ○表を使って場合の数を求めること 2. 確率による説明 ○身のまわりの事象について確率をもとにして説明する	【主体的に学習に取り組む態度】 ○さいころの目の出方など、偶然に左右されることがらに関心を持ち、その起こりうる程度を調べようとする。 ○起こりうるすべての結果が同様に確からしいときは、確率が計算によって求められることに関心をもつ。 ○いろいろな場面で、起こりうる程度に関心を持ち、場合の数や確率を求めようとする。 【思考・判断・表現】 ○偶然に左右されることがらの起こりうる程度にちがいがあはることに気づく。 ○ことがらの起こりうる程度を多数回の試行において、そのことがらの起こる割合に着目して考えることができる。 ○ことがらの起こりうる程度を「同様に確からしい」ことに着目して考察することができる。 【知識・技能】 ○多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。 ○簡単な場合について確率を求めることができる。	知識・技能	○樹形図や表などを場面に応じて利用するなど、場合の数を求める方法の効果的な利用のしかたを理解している。 ○確率には統計的確率と数学的確率があることを知り、それらの意味を具体例を通して理解している。 ○起こりうる場合の数の求め方を、見通しをもち、場面に応じて方法を判断するなど、能率的に行うことができる。 ○観察、実験やデータの処理を的確に行ったり、「同様に確からしい」ことを適切に用いたりして、確率を正確に求めることができ、その求め方を説明することができる。	○樹形図や2次元の表の意味や利用のしかたを理解している。 ○確率、同様に確からしいなどの意味を理解している。 ○樹形図や2次元の表をかくことによって、起こりうるすべての場合を求めることができる。 ○簡単な事象の確率を求めたり、その求め方を説明したりすることができる。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
			思考・判断・表現	○起こりうる場合の数を、正確かつ能率的に数え上げる方法を見だし、考察することができる。 ○確率を求める合理的な実験方法を考えることができる。 ○求めた確率について、その値の意味などを、具体例にもどって考察することができる。	○起こりうる場合を、順序よく整理して考察することができる。 ○事象の起こりうる程度を、多数回の試行を行ってその事象が起こる割合に着目したり、「同様に確からしい」ことを用いたりして考察することができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○起こりうる場合の数を、落ちや重複がないように、見通しをもって、能率的に調べようとする。 ○確率の考えが使われている場面を見いだしたり、確率の考えを用いて、日常の場面を考察したりしようとする。	○起こりうる場合に関心を持ち、それを順序よく整理して調べようとする。 ○不確定な事象に関心を持ち、観察、操作や実験を通して、その事象の起こる程度を数で表そうとしたり、それを用いて調べようとしたりする。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート

月	学 習 内 容	評 価 規 準	観 点	評 価 基 準		評価方法
				十 分 達 成 A	お お む ね 達 成 B	
3月	1. 四分位範囲と箱ひげ図 ○箱ひげ図と四分位範囲の意味 ○データを整理して箱ひげ図に表す ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較	【主体的に学習に取り組む態度】 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 【思考・判断・表現】 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り，批判的に考察し判断することができる。 【知識・技能】 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。	知識・技能	○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し，データを整理して箱ひげ図に表すことができる。 ○箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解している。 ○箱ひげ図とヒストグラムの対応を理解している。 ○箱ひげ図と四分位範囲の必要性を理解している。	○箱ひげ図と四分位範囲の意味を理解し，箱ひげ図に表すことができる。 ○箱ひげ図と四分位範囲の特徴を理解している。 ○箱ひげ図と四分位範囲の必要性を理解している。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 小テスト
1			思考・判断・表現	○2つのヒストグラムから，データの分布の傾向を比較して読み取り，説明することができる。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り，批判的に考察し判断することができる。	○2つのヒストグラムから，データの分布の傾向を比較して読み取ることができる。 ○四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り，判断することができる。	授業観察 定期考査 問題集 小テスト 反省プリント
			主体的に学習に取り組む態度	○既習のデータの整理や分析の方法を，問題解決に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 ○データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返ろうとしている。	授業観察 定期考査 ノート 問題集 反省プリント 自習ノート